第 4 回目（1993 年 10 月 2 日放送）

【いろはがるた】

「盗人の昼寝」: A puzzling nap by a thief[1].

【話の内容】

1911 年(明治 44 年)1 月 16 日の「ハワイ殖民新聞」に「黄白の結婚」という記事があった。ハワイ島、ホノカア在住増田増次郎（大工）の娘マサコは、ヘンリー・リカードと結婚することとなった。「らしゃめん」（白人の妾）のような関係はこれまでにもあったが、正式な「結婚」という形をとったのはこれが初めてでなかろうか。排日という当時の日米関係を考えても、称賛されるものだ、といった具合に新聞では紹介していた。

それから 10 年後の 1922 年、「雑婚問題」という記事がマキキ教会の奥村多喜衛牧師によって「日布時事」に書かれた。この記事が書かれたのが排日移民法が制定された 1924 年頃ということもあり、日本人排斥論が盛んに論じられるようになった。「日本人は幼い時から世界最大の人種、神の国であり、他の人種を征服すると教えられるため、ハワイでも雑婚を避けている」という考え方に対し，奥村は日本からハワイに行ったばかりで言葉が通じないために雑婚を避けていると批判した。そして、ハワイ全島の国際雑婚を調査した結果、ハワイ島には 59 組、マウイ島では 26 組、モロカイ島で 6 組、オアフ島では 30 組、カウアイ島に 25 組の雑婚が確認された。1 世は言葉が通じないので、異人種間の愛が育まれないが、２世は他の人種と同じ学校に通いながら育ったので１世よりも異人種間で愛を育みやすく、将来、雑婚が増えるのは明白であると奥村は説明した。

現在、雑婚はその数を数えられないほどである。ジョン・ワイヘエ元州知事の妻はリン・コバシガワ・ワイヘエという三世であり、フランク・ファシ元ホノルル市長（郡長）の妻もヒロ出身の三世である。パッツィ・ミンクも名前は白人の名前のように見えるが日系である。さらには、ステファン・ヤマシロ元ハワイ市長（郡長）夫人は白人女性で、ジョアン・ユキムラ元カウアイ市長はご主人が白人である。

1881 年にカラカウア王が日本に赴いた後、駐日ハワイ公使であったロバート・アーウィンは官約移民に尽力したが、その彼が両替商の娘[2]と結婚をした。このような先人達の頑張りがあったから、日系人・日本人は現在ハワイ社会で大きな顔をしていられる。

---

[1] 意味をなさない文である。“A purposeful nap”を読み間違えたか。第 3 回目の放送と同じである。

[2] 武智イキのこと。

【曲】
「二世行進曲」（作詞・作曲：古賀政男）

【サブジェクトタグ】
ハワイ殖民新聞　日布時事　結婚　雑婚　奥村多喜衛